

図書だより

平成 29 年 5 月 27 日 第 02 号
シンガポール日本語補習授業校

課題図書が届きました！

第 63 回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書本が図書室に入りました。貸出は、来週 6 月 4 日（土）からです。

今年もおもしろそうな本が選ばれています。ぜひ、読書感想文を書いてコンクールに参加してください。



小学校低学年向け



「ばあばは だいじょうぶ」

楠 章子著

ばあばは、いつも
いってくれる。
「つばさはだい
じょうぶだよ」っ
て。そんなばあば
が、「わすれてし
まう」びょうきに
なってしまうて
…。



「なにがあっても
ずっといっしょ」

くさの たき著

オレはサスケ。イヌ
だ。サチコさんのい
えのにわにすんで
いる。サチコさんと
いっしょにいると
きがいちばんたの
しい。
でも…。



「すばこ」

キム・ファン著

巣箱は、ひとが作った
鳥の家です。もとはド
イツの貴族の男性が
はじめたことを知っ
ていましたか？日本
ではまだあまり知ら
れていない巣箱の始
まりと、その楽しみ
方をえがいたノンフ
ィクション絵本。



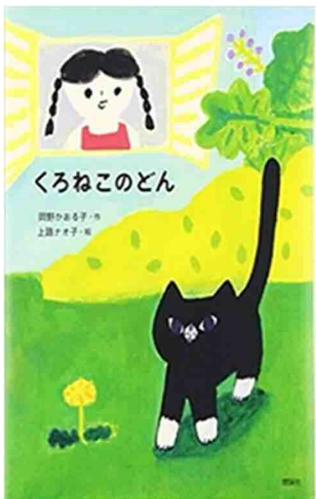
「アランの歯はでっ
かいぞ こわーいぞ」

ジャーブイス著

アランはこわーいわ
ニの一族。ジャング
ルのみんなは、アラ
ンをこわがるけど、
それはアランのど
りよくのたまもの。
うろこをみがき、つ
めをとがらせ、歯を
、いっぽんにつきさ
いてい 10 分か
けてみがいてジャ
ングルにでかけま
す。でもね 歯は…



小学校中学年向け



「くろねこのどん」

岡野 かおる子著

「ようい、どん」 えみちゃんが、かけ声をかけるとぱっとあらわれて、にゃーとこたえるねこ。いつのまにか「どん」という名前になりました。きょうは、どん、来るかな？ ねこと女の子のなかよしで自由なかんけい・・・



「空にむかってともだち宣言」

茂木 ちあき著

ミャンマーから転校生がやってきた。あいはすぐにうちとけてなかよくなるが、給食のときにちょっとした事件が起きて…。それをきっかけに、みんなミャンマーのことや、日本にくらす難民についても学び始める。



「ほしたから・・・」

森枝 たかし著

世界の干した食べもの大集合!野菜も魚も、肉も!?!どうして干しちゃうの!?!テーブルの上でふしぎを発見!!世界じゅうを歩いた著者による、ふしぎなふしぎな「干したもの」のおはなし。干すことのふしぎとその目的を紹介。



「耳の聞こえないメジャーリーガーウィリアム・ホイ」

ナンシー・チャーニン著

「ストライク」「セーフ」。今ではだれもが知っている審判のジェスチャーを考えた、あるメジャーリーガーの伝記。

図書ボランティア募集中

図書室では、図書ボランティアを若干募集しています。

月に最低2回、1時から5時まで図書室のお手伝いが可能な方で、興味のある方は遠慮なく事務局にお問い合わせください。

Eメール : hoshuko@jss.edu.sg

電話 : 6777 5560



「チキン」

いとう みく著



「ぼくたちのリアル」

戸森 しろこ著



「霧の中の白い犬」

アン・ブース著



「転んでも、大丈夫: ぼくが義足を作る理由」

臼井 二美男

いいたい事はなん
だってはっきりい
う転校生の真中さ
ん。面倒なことや
トラブルをさけて
生きてきたぼくの
ゆるゆるとした毎
日は、真中さん
によって一転した。

そいつの名前は、秋
山璃在（りある）。
ぼくたちの学年で、
リアルを知らないや
つはいない。なぜっ
て？リアルはすごい
やつだから。学年一
の人気者。それはあ
いつにふさわしい、
かっこよくて勢いの
ある名前だった。

ジェシーが学校で
ナチスについて学
びはじめた時、祖
母を苦しめている
過去と向き合うこ
とになり…。悲し
みと寛容を描いた
物語。

最近では、東京パ
ラリンピックに向
けて、メディアで
の登場も多い、臼
井二美男さん
この方の義足にか
ける思い、義足を
通して、足を失っ
た人の幸せを願う
強い気持ちが
分かりやすい言葉
で記されている。

著者紹介

いとう みく 『糸子の体重計』は第46回日本児童文学者協会新人賞を受賞、『空へ』で第39回日本児童文芸家協会賞を受賞しました。主な作品に、「かあちゃん取扱説明書」「ていでん☆ちゅういほう」、「車夫」、「二日月」「キナコ」などがあります。

戸森 しろこ 「ぼくたちのリアル」は、第56回講談社児童文学新人賞受賞、第46回日本児童文芸家協会児童文芸新人賞受賞作です。三人の少年の忘れられない夏の友情物語。ぜひ読んでみてはいかがでしょうか。



中学生向け



「円周率の謎を追う：江戸の天才数学者・関孝和の挑戦」
鳴海 風著

現代ではあたりまえの円周率“3・14”が、まだ使われていなかった江戸時代。円に魅せられ、その謎を解こうとした数学者がいた。かれの名は、関孝和。日本独自の数学・和算を、世界に通じるレベルまで高め、死後、算聖とよばれた数学者の生涯を、かれを支えた人々とのつながりの中で描く。子どもと大人が共有できる新しい児童文学。



「ホイッパーウィル川の伝説」
キャシー・アッペルト/
アリスン・マギー著

“ケネン”は、魂とつながっている。どうしてなのかは、だれにもわからない。ケネンは人知をこえた理由でこの世界にやってきて、使命を果たしたら祖先のいる安息の地にもどるという。特別な絆で結ばれた二人の姉妹と子ギツネの魂が響きあうスピリチュアル・ファンタジー。



「月はぼくらの宇宙港」
佐伯 和人著

いま月は、人類が太陽系へフロンティアをひろげるための宇宙港として、注目を集めはじめています。そんな「熱い」月を大解剖。近年の月探査によってわかって来た、最新の月科学を紹介し、人類と月の新しい関わり方をしめします。子どもたちの宇宙開発未来図を月へ、太陽系へと広げ、将来の宇宙への関心を大きく伸ばします。

著者紹介 鳴海 風 (なるみ ふう) 「円周率の謎を追う：江戸の天才数学者・関孝和の挑戦」

自動車部品メーカーで長くエンジニアとして働きながら、和算を題材にした小説を執筆。主な作品として『算聖伝』『怒濤逆巻くも』『ラランデの星』『和算忠臣蔵』『星空に魅せられた男 間重富』『江戸の天才数学者』『和算の侍』などがある。1992年「円周率を計算した男」で歴史文学賞を受賞、2006年に日本数学会出版賞を受賞しました。